

四国中央市福祉バス運営審議会（第2回） 会議概要

1. 日 時 令和2年2月21日（金） 午後2時00分～午後3時00分
2. 開催場所 四国中央市 新宮窓口センター1階応接室
3. 出席者 委員 出水武美、篠原雅代教頭、山本正行、藤原清子、藤原孝子、三鍋邦代
（敬称略）
事務局 観光交通課長 吉岡達也、観光交通課交通政策室長 篠原克昌、
課長補佐 大岡潤、係長 石川恵次
（欠席） 野村浩副会長

会議の概要

1. 会長挨拶（出水武美）
2. 議 事

議事に入る前に上山上部線で運行している車両（14人乗り）が更新の時期にきているので前回承認頂いた10人乗り仕様で予算計上している。来年度に更新する予定と事務局から報告した。

議事①「近年の利用状況について～民間路線バスの動向について」は、元年度の利用状況は、参考資料①1ページ目より月別路線別の利用などを記載しており、一般（現金）利用者数全体が平成29年度と平成30年度を比較すると3,011人から2,867人と減少しているが、今年度は12月末で2,363人が乗車しており昨年度からは微増している。しかし、定期券の児童が転居したり回数券の乗客が減っており、今後、人口減少などで右肩下がり傾向であると報告した。

また、民間路線バスについて確認したところ、たちまち4月に時刻表の改正は無いが、10月は、まだ見通しが見つからないと報告した。

つづいて議事②「運輸局への登録更新に向けた見直しについて」は、各路線の見直し案を新瀬川線から順番に報告した。資料1ページ目より、新瀬川線は2名の通学利用者が転居したため0人となり今後は定期券の収入は見込めないが、少ないながらも一般者の利用があり全便で現状を維持して様子を見ることとする。上山上部線は、現在利用のない早朝の鳩岡集会所行き（片便）を減便する。また、利用者の傾向として年末頃から朝の早い便を利用して診療所に来る方が増えている。ところが2便の発車時刻までの待ち時間が長く、現行1便目と2便目の間にもう1便を増便して利用者の要望に応じていく。日浦線は年々利用者が激減しており、全く利用されていない早朝の1便を減便する。また上市仲方面へ

の路線延長を検討したが地元の意見を聞くなど、次回の更新年まで先送りとしたが、それでも今後のことを考慮すると高齢者等の生活支援として福祉部の事業である外出支援バスのエリアを陸運局に新規登録して利用者がいれば即座に対応できるようにしておく。

上山下部線は、天日バス停留所と竹の峯バス停留所を乗り降りに最も近い場所へ変更して高齢者へのサービス向上を図る。また14時ごろの便があれば便利という要望に対して、鳩岡14時45分発の新宮から回送で行っている便をダイヤに組み込み利用者の要望に応える。

週1便で運行している大谷線・杉谷線・田の内線について便数や時刻は現状通りとするが、利用者の要望でもあるJAうま新宮支店を通るコースに変更する見直し案を提案した。

議事③「その他」では、上山上部線のバス停留所時刻表での「寺内小学校前」を「旧寺内小学校前」とし、上山下部線の時刻表と統一した表示名にすることを報告した。

つづいて委員からの質疑に入り、委員長から次の3年後の更新時には、また状況が変わっているかも知れないが、ここまで改善できたことは良かったと思うとあった。他の委員からは、免許返納者の利便性を考えてあげてほしいと要望があり、事務局としても免許返納者のことを考え、将来的な利用者数を見据えながら、ただ単に乗客がいらないからといって運行を減らすことは避けたいと回答した。また、委員から他の自治体での運行事例を勉強してきてほしい。そのほか他の自治体でも福祉バス事業の制度はあるのかと質問があり、今回福祉バス車両の更新にあたり四国内各所（山間地域）を調べてみたが県内でも市町村運営有償運送を行っている自治体はありと返答した。事務局からデマンドタクシーの利便性と福祉バスの利便性ではそれぞれ一長一短あるので地域にあった運行も今後考えていく必要があると付け加え回答した。

教頭から、スクールバスの早朝便と夕方便の乗降場所を4月から今まで混雑していた新宮停留所から学校の川向かい駐車場に移すことに決定したと報告があった。

他に意見なし。（全員了承により閉会）